



町に関係する話題など広報係が取材したできごとをご紹介します。

## 自分たちの震災経験から学んで、未来に生かして！

東無田地区のスタディーツアーが初めて修学旅行を受け入れ

5月11日、東無田復興委員会（田崎眞一代表）と地域の女性で組織するサークル絆が行っているスタディーツアーが、初めて修学旅行を受け入れました。

同ツアーは、地区内を歩き被災地の現状を肌で感じてもらうとともに、自分たちの経験談から地震や防災について学んでもらおうと平成28年11月から行っているもので、今回が53回目。

東京都の目黒星美学園高校の2年生82人（教諭6人）が到着すると、5班に分かれてメンバーが地区内を誘導、発災当時のようすや避難生活での経験談、教訓などを生徒たちに伝えました。

生徒たちは、「道路などに段差があり、地震を実感した」、「地域内のコミュニケーションがあつたから助け合えたと思う。その大切さがわかつた」、「普段の『当たり前』の有り難さがわかつた」など、感想を話してくれました。

田崎代表は、「この地区は、古くから受け継いできた習慣や行事を通じてみんなが理解・協力し合うことで、地域コミュニティがしっかり形成され、共助ができた。また、修学旅行の話があると思うが、可能な限り、学生にも集落の人にも参加いただいで益城の復興につなげたい」と話しました。



(上) 仮設住宅での説明のようす  
(右) 途中で102歳の堀川ヤスエさんもお出迎え  
(下) 最終地点の公民館に置かれた発災当時の写真や震災後の地区での動き



## 初対面の人と連携して救助

人命救助で宇城広域連合消防本部から表彰

5月1日に宇城広域連合消防本部で、人命を救助したとして、島崎誠太さん（安永3町内）と宇土市在住の2人が岩本和也消防長から表彰を受けました。

これは、4月に宇土市赤瀬町新港で、岸壁から有明海に転落した釣り人をいち早く発見し、消防への通報および、消防と協力し要救助者を救助したことをたたえたもので、表彰を受けた島崎さんは「無我夢中で皆さんと一緒に助けました。助けた人が無事だと聞いて嬉しいです」と話しました。



消防長から表彰を受けた島崎さん

Best Smile  
今月のベスト笑顔

